

ファミリー礼拝メッセージ(2021年11月28日) ゆりこ副牧師

「部屋は空いていますか？」 ルカによる福音書 2:1-7

今日からアドベントですね。日本語ではアドベントを、「待降節」と言います。漢字を見ると、「待つ 降る 期間」

では、誰を待つのでしょうか。もちろんイエス様ですね。

イスラエルの人たちは、何百年という長い間、救い主が来られるのを待ち望んでいたのです。そしてとうとう、イエス様は今から二千年前に、イスラエルのベツレヘムでお生まれになりました。これがクリスマスです。

今日のお話は、アメリカのある街の教会で、本当にあったお話です。

ある年のクリスマス、教会で日曜学校のお友達が、イエス様お誕生の劇をする計画を立てました。ヨセフ、マリア、天使、羊飼い、博士など、次々に役が決まっていきました。

最後に、1人の男の子が前に出てきました。名前はクリスくん。「先生、僕も何かの役がやりたいなあ」

クリスくんはとっても恥ずかしがり屋で、人前でせりふをいうのはむずかしいかも、と牧師先生は思いましたが、普段は自分からやりたいということの少ないクリスくんが、自分からやるといってくれたので、牧師先生はクリスくんに一つの役をしてもらうことにしました。

それは宿屋の主人の役でした。宿屋を探すマリアとヨセフですが、どこもいっばいで宿屋の主人は「ダメです、ダメです、うちはいっばいです」と断るとい役です。

クリスくんも大喜びで、その日から一生懸命の練習が始まりました。

こうして何日も練習したおかげで、恥ずかしがりでお話が苦手なクリスくんも、きっちりとセリフを覚え、言うことができるようになりました。

クリスマス礼拝の時を迎えました。家族、お友達、教会のみんなが劇を見ています。そして、マリアとヨセフがベツレヘムに到着して宿屋を探す場面に来ました。

いよいよクリスくんの登場です。「お部屋は空いていませんか？」と尋ねるヨセフとマリアに、「ダメです、ダメです。うちはいっばいです。」クリスくんは汗をかきかき言いました。

「よかったあ。クリスくん、ちゃんと言えたよ。」みんな一安心。

でも、セリフを無事に言い終えたクリスくんでしたが、その目には涙があふれています。宿屋の主人に断られて、とぼとぼと去っていくマリアとヨセフを見ていたら、クリスくんはたまらなく悲しくなってしまったのです。そして次の瞬間、

「ぼくのおうちにおいでよ！」

と、なんとクリスくんは台本にないことを言ってしまったのです。



みんなびっくりしましたが、やがて会場から拍手が起こり始めました。クリスくんの優しい言葉が心に響きました。イエス様のためのお部屋がないと言って、イエス様を拒むことができないクリスくんの心がみんなに伝わったのです。

イエス様のために心のお部屋を空けて、イエス様をお招きしたクリスくん。劇は台本通りに行かなかったけれど、会場みんなの心に残る温かいクリスマスを迎えることができました。

「光は暗闇の中で輝いている。」ヨハネによる福音書 1章5節

イエス様は世の光としてお生まれになりました。その光であるイエス様を素直に心にお迎えすることが大切です。

12月になると、みなさんも忙しさが増すかもしれません。でも、アドベントは、イエス様を待ち望む期間です。神のひとり子が、宿屋ではなく、家畜小屋で生まれてくださいました。私たちの罪を赦すため、十字架で死ぬために生まれてくださったのです。そのお方を思わず、忙しい忙しいとイエス様を締め出しているとしたら何と悲しいことでしょうか。今年はイエス様を第一に思うアドベントを過ごしましょう。

そしてもし、まだイエス様を心にお迎えしていない人がいるなら、クリスくんが「僕のおうちにおいでよ」とイエス様をお迎えしたように「イエス様、どうぞ私の心にお入りください」とお迎えしましょう。また、すでにクリスチャンの方は、イエス様に心のお部屋を明け渡しているかどうか、光を当てていただきましょう。

初めに読んだルカによる福音書に「彼らの泊まる場所がなかった」と書いてあります。あなたの心の部屋は空いていますか？イエス様は私たちが心を開いて、イエス様をお迎えするのを今も待っておられるのです。